

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 広島県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
	原因究明	<b>【県の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 原因分析 ①現地調査による、海況環境の差異によるへい死状況の把握 ②室内実験による海洋環境条件下でのへい死リスクの検証	①へい死状況の異なる2か所  ②広島県水産海洋技術センター	R8年度実施へ向け調整中
長期の高水温	高水温対策	<b>【県、漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 養殖方法の転換 ①漁場環境のリアルタイム観測 ②カキの水深操作など短期的へい死対策の実証	R8年度実施へ向け調整中	R8年度実施へ向け調整中
貧酸素、高塩分による生理障害	適正な養殖密度	③適正養殖密度による養殖管理などの安定生産へ向けた中長期的な対策の検討		
	モニタリング強化	④漁場環境モニタリングの項目（塩分濃度及び溶存酸素）の追加		
	安定的な種苗採取	⑤AIを活用したカキ幼生調査の支援		
	環境に適した種苗の導入	⑥環境の変化に強い種苗を育成するための管理技術の実証		
	貧酸素対策	<b>【市町、漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 漁場環境の改善 牡蠣殻を有効活用した漁場の底質改善	R8年度実施へ向け調整中	R8年度実施へ向け調整中

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 岡山県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 降水量の減少による高塩分等	へい死の原因究明とへい死発生時の早期対応  高水温・高塩分対策等	<b>【県の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> カキのモニタリング調査 ①成育状況調査 ②へい死状況調査 ③カキの漁場環境調査  <input checked="" type="checkbox"/> 塩分など漁場環境の違いによるへい死低減実証試験  <input checked="" type="checkbox"/> 蓄積した漁場環境情報等のデータベース化	<input checked="" type="checkbox"/> 岡山県下全域    <input checked="" type="checkbox"/> 岡山県水産研究所	①5月以降、毎月実施 ②7～11月の間、毎月実施 ③年間を通しての調査   5～11月の間、毎月実施
		<b>【漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 養殖手法に係る取組 ①比較的へい死が少なかった低塩分の漁場の活用 ②漁期中に行う筏の移動時期や方法の見直し ③一部の地区における三倍体種苗の養殖数量の増加	R8年度実施へ向け調整中	R8年度実施へ向け調整中

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 兵庫県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
	へい死の原因究明	<b>【県の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 陸上水槽飼育実験により、高水温下における餌料条件を比較することで、へい死、産卵状況、成長差等を調査	場所：兵庫県立農林水産総合センター 水産技術センター 規模：200L水槽×6基程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4～7月：予備試験</li> <li>・8～9月：飼育実験</li> <li>・10月～：結果とりまとめ、次年度に向けた準備</li> </ul>
高水温 エサ不足	高水温対策	<b>【県の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 高水温環境に適応するためのマガキ養殖方法の確立を目指すため、従来とは異なる養殖方法（夏期の高水温を回避する養殖）に取り組む	場所：一部の漁協 規模：吊り線数十本程度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月：養殖試験委託</li> <li>・6～11月：現地実証試験</li> <li>・12月～：結果とりまとめ</li> </ul>

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 愛媛県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温	高水温対策 エサ不足対策	<b>【漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 養殖手法に係る取組 ① 筏に遮光シートを設置 ② 筏を潮流の早い海域に移動	場所：A市 規模：① 養殖用筏 3～5台 ② 養殖用筏 2台	① 7～10月 ② 7～8月
貧酸素	環境に適した 種苗の導入	<input checked="" type="checkbox"/> 種苗に係る取組 ① 3倍体マガキの養殖 ② 複数の産地から種苗を導入することによるへい死リスクの分散	場所：B町 規模：① 2籠程度 ② 種苗の産地別に各2籠程度	① 周年 ② 10月から翌年3月頃まで

## 香川県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温	モニタリング強化	<b>【市、漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 水産センサー設置による漁場環境モニタリング	一部の漁協	令和8年度漁期
エサ不足 貧酸素	環境に適した 種苗の導入	<b>【漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 種苗に係る取組 ① 3倍体マガキの養殖 ② R7漁期の生残率が高い又は高水温耐性が高いとされる産地の種苗を導入	一部の漁協	令和8年度漁期

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 徳島県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 貧酸素 エサ不足	高水温対策	<b>【漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 養殖手法に係る取組 ① 深吊り ② 養殖エリアの分散	昨年度養殖と同区画	① R8.5月および10月 ② R8.4～8月
	へい死リスク分散	<input checked="" type="checkbox"/> 水揚げ時期の調整 夏場へい死前の冷凍品 の開発	場所：A町 規模：5～10万貝	R8.3月～
	高水温対策	<input checked="" type="checkbox"/> 種苗に係る取組 3倍体への切り替え	既存水域	R8.9月 種付け

## 大阪府

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 赤潮（へテロカプ サの増加）	へい死発生時の リスク軽減	<b>【県の取組】</b> ① 漁業共済への加入促進 ② 養殖再開に対する 補助事業の実施	場所：大阪府下全域	令和7年3月末頃 ① 漁業共済の説明会 ② 補助金の募集開始

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 山口県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温 エサ不足 降水量の減少	適正な養殖密度	<b>【漁業者の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 飼育密度の管理 ①バスケット式養殖において、カゴの体積に対して、1/3～2/3の収容になるよう徹底を図る。 ②新たな養殖場を検討。	場所：県内の複数漁協	養殖密度管理については4～5月又は9～11月の種苗導入時から。
	付着物対策	<input checked="" type="checkbox"/> 付着物の除去の徹底		付着物除去については随時。

## 高知県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
不明	へい死発生時の早期対応	<b>【県の取組】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 養殖業における高水温・赤潮対策の強化としてテレメーターブイ（水温・DO・クロロフィル等、2層）を設置予定	場所： 貝類養殖区画に近い魚類養殖区画に1基設置予定 ※隣接する漁協にも1基設置予定	R8年度中に設置予定。

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 三重県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
—	環境に適した 種苗の導入	<p>【県の取り組み】</p> <p>※令和7年度から継続</p> <p>☑水産研究所でのへい死 対策試験（3倍体種苗の 有効性の検証など）</p> <hr/> <p>☑栽培漁業センターでの 三倍体カルチ種苗生産 実証試験</p>	A市を中心とするカキ養殖 漁場で、試験的規模で実施	<p>水産研究所での試験は 随時開始。</p> <hr/> <p>三倍体カルチ種苗生産 実証試験は 秋ごろに実施を予定。</p>

## 福岡県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
—	環境に適した 種苗の導入	<p>☑種苗に係る取組</p> <p>①海域に適した種苗産地 の選定</p> <p>②三倍体種苗の試験</p>	複数の代表地先を選定し、 養殖筏の一部を借りて モニタリング調査を実施。	令和8年2月～ 令和9年1月頃まで 定期的に調査を実施。

# 各府県のR8年度のへい死軽減等に向けた取り組み計画の概要

## 宮城県

へい死推定要因	主な目的	取り組み内容	場所・規模	スケジュール
高水温等 (※令和5年度から高水温が継続)	へい死原因究明	<b>【県の取り組み】</b> <input checked="" type="checkbox"/> 県水産技術総合センターによるへい死調査 ※令和6年度から継続	県中央部のカキ漁場でへい死調査（カキサンプリング、漁場環境モニタリング） ※令和5～7年度までは県南部で調査	調査は随時開始
	環境に適した種苗の導入	<input checked="" type="checkbox"/> 県水産技術総合センターによる3倍体カキの種苗生産技術開発や有効性の検証など ※令和4年度から継続	県水産技術総合センターで屋内試験、漁場で試験養殖	試験および試験養殖は随時開始
	高水温対策	<input checked="" type="checkbox"/> 高水温等の環境変動に対応するための支援（県単独事業） （生産工程見直し、深下げ、3倍体カキの導入等に係る資材経費を支援し、漁業者による取り組みを後押し） ※令和6年度から継続	県下全域を対象	支援は随時開始